

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	有限会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成22年6月7日	評価結果市町村受理日	平成22年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して、散歩に出かけ、季節を感じながら、地域の方々と交流したり、社会から孤立しないよう支援しています。認知症になり、できないことが増えてきても、家事等の作業を入居者と職員が一緒に、「できること」「できないこと」を見極めながら、さりげない支援を心がけています。食事は大切な楽しみの一つですので、献立は、旬の食材を積極的に取り入れ、季節感とバリエーションに富み、喜ばれています。まどべの理念に基づき、入居者の個々のペースに合わせ、ゆったり時間が流れ、尊厳を守り、地域の一員としての社会的交流を支えながら、一日一日を大切に暮らすお手伝いをしています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170504021&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年6月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市内の閑静な住宅地の中にある3階建ての建物で、2、3階に2ユニットのグループホーム、1階にデイサービスを併設している。近隣には公園や幼稚園、昔ながらの市場があり、徒歩での外出を楽しむ環境に恵まれている。室内は清潔で各設備が使いやすく配置されており、トイレや風呂、エレベーターなどの設備も整っている。普段から散歩や買い物に出かけ利用者と地域の方と顔馴染みの関係を築いており、花見や外食などの年間行事も充実させている。利用者や家族、管理者、職員のコミュニケーションが良く取れており、お互いの信頼関係ができています。介護計画の作成にあたってはセンター方式による詳細なアセスメントを行ない、利用者本位の介護計画が作成されている。また、サービス記録や業務日誌などの書式が記入しやすいよう工夫されており、書式に沿って適切な記録がなされている。食事や入浴、看取り介護なども利用者や家族の意向に沿ったサービスを提供している。職員は理念を理解して共有し、利用者にとりやすく優しくゆったりと接し、利用者は穏やかに日々を過ごしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみあって暮らしていきたい自分らしく誇り高く地域の一員として生きいきと」の理念を全職員共有し申し送りやカンファレンス勉強会等で意見交換しています。	事業所の居間やスタッフルームに理念を掲示し、勉強会やミーティングで内容を確認し合い、職員間で共有している。「地域の一員として生きいき」という文言を加え、地域密着型サービスとしての理念を確立している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や買い物の時等近所の方や市場の方と交流し気軽に声を掛け合います。また運営推進会議にも参加いただいています。	毎日のように利用者が散歩に出かけ、市場やコンビニで商店の方と顔見知りになったり、近隣住民に庭を見せてもらったり、犬に声をかけたりしている。大正琴などのボランティアの方も頻繁に事業所を訪れている。事業所のお祭りにも住民を招待している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時などに「認知症を学び地域で支えよう」や「高齢者虐待防止についての取り組み」などをテーマに地域の方々に向けていかしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告や公表制度についての報告、話し合い意見交換をしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に、サービス評価や行事、防災などをテーマにして開催されている。地域包括支援センター職員、利用者家族、近隣住民、事業所職員などが参加しているが、町内会の役員等の参加はまだ得られていない。	地域との交流や協力体制をより強めるためにも、町内会長や民生委員等の地域の代表者に運営推進会議に参加していただけるよう、働きかけや調整・情報交換などを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や区役所の方に相談したり話し合いサービスの質の向上に努めている。また、札幌市GH管理者連絡会議や集団指導には必ず出席しています。	管理者はデイサービスの管理者も兼務しているため、各種の手続きの際にその都度、市や区の担当者に相談し、親密な関係を築いている。また、事業所として市や区のグループホーム連絡協議会に欠かさず参加している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者より身体拘束しないケアを行うよう勉強会やカンファレンスに参加し職員に伝え実践しています。	法人代表者が身体拘束に関する講義を行ったり、管理者が外部の研修会で学んだ内容を職員に伝えている。施錠に関しては、日中玄関には鍵をかけず自由に出入りすることができる。各ユニット出入口のドアにセンサーを設置して利用者の外出がわかるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加した職員は内部の勉強会で資料を作成の上事例検討等を行い虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部の研修に参加し内部の勉強会で職員に報告しています。必要な人を見極めるよう努めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書や利用契約書などと口頭で説明を行い、解約時にも不安や疑問がないか確認、その後のフォローも行っていきます。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時やケアプランの説明時に要望を尋ねたり、運営推進会議時にもご意見をうかがっています。	家族の来訪時やケアプランの確認時、運営推進会議や行事への参加の際に家族から意見を聞き、利用者本位の対応を行なっている。家族の意見等は日誌に記録し職員間で共有している。また、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月行われている勉強会やカンファレンスに参加し職員からの意見を聞く機会を設け、できる限り運営に反映させています。	毎月のカンファレンスや勉強会の際にミーティングを行ない、職員同士で活発に意見交換し運営に反映させている。管理者や代表者も個別に職員に声かけし意見を聞くようにしている。利用者のダメージを防ぐため職員の異動は必要最低限としている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はカンファレンスや勉強会に参加したり職員の日々のケアを把握し評価しています。また向上心を持って働けるよう職場環境の整備を行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量に合った研修に参加できるよう積極的に機会を確保しています。またその他の研修の案内も職員に伝えています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は今年度中に他のGHと交流ができるよう会議に参加、現在予定調整進行中です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>まずは管理者が中心となって安心できるような話し合いを行っています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>まずは管理者が中心となって安心できるような話し合いを行っています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>代表者と管理者は利用前の面談でご本人とご家族の「その時」の状況を見極め、他のサービスの利用も視野に入れて話し合いしています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人に助けてもらったり教えてもらう場面を作り職員は感謝の気持ちを持って働いています。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族が気軽に来訪でき、居心地良く過ごせる場面作りをしています。また情報交換もしています。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>大切にしてきた馴染みの人や場所の話題を提供し関係が途切れないように支援しています。</p>	<p>利用者の古くからの馴染みの関係が途切れないよう、知人から何か送ってもらった時にはお礼の電話をかけるのを手伝ったり、利用者が昔から参加している会合へ送迎を支援したりしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う方同士が過ごせるように配慮したり利用者の持っている力を生かし支え合えるようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅へ戻られた方も同一建物内のデイサービスを利用したりなど引き継ぎしています。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションから思いや希望を把握しています。また自己決定する場面を作っています。	言葉で思いを表現することが難しい利用者でも、表情やしぐさ、行動パターンから思いや意向を把握するように努めており、その情報を職員間で共有している。利用開始時に詳細なアセスメントシートを作成し、その後新たに得られた情報も蓄積している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し情報の共有をしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用し常に観察して申し送りやカンファレンスなどで情報を共有し職員間の連携を密にしています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用し全職員でカンファレンスを行いご本人本位の介護計画を作成しています。また概ね3ヶ月に1度評価見直しをしています。	利用開始時に家族や医療機関等の情報を収集して詳細なアセスメントを行ない、関係者で話し合った上で介護計画を作成している。定期的に「アセスメントまとめシート」を作成してモニタリングを行ない、3ヶ月を目標に介護計画を見直し作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々観察している様子や気づき、ケアプラン実施の様子なども記録し介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者が中心となって医療機関と連携をとり、ご家族が受診に付き添えない時は職員が代わりに一緒にいきます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの先生や近所のお店の方などにも協力していただいています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在はご希望がないため提携医を利用していただいています。希望があった場合には希望に添えるように支援していきます。	提携医療機関による2週間に1度の定期的な往診を受け、通院の際は事業所や医療機関の車で送迎している。提携医療機関以外のかかりつけ医の受診は家族対応であるが、緊急時や家族の都合によっては職員が対応している。また、常勤の看護師を職員に配置している。受診の内容は日誌に記録し、家族に適切に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいて入居者の状況を把握しており介護職員はすぐに相談できる体制になっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医に入院できる体制ができています。また専門病院への入院が必要な場合には往診医から紹介してもらっています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合の指針をご説明しています。また早い段階でご本人とご家族と話し合いを行いターミナルケアも行っています。	事業所としてできる範囲で看取り介護を行なう方針とし、昨年度も2名の看取りの経験を積んでいる。医療行為面では常勤の看護師を配置することで柔軟に対応している。「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して家族に説明し、納得を得て書類を取り交わしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時研修で行ったり、勉強会などでも看護師が中心となって行っています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っています。災害時には地域の方に協力していただけるようお願いしています。	年に2回、消防署の協力を得て夜間を想定した避難訓練を実施している。緊急通報装置の連絡先として近隣住民2名の協力を得、登録させてもらっている。スプリンクラーについても設置を予定している。職員の救急救命訓練も定期的な受講を計画している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような声かけや対応で尊重しています	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し対応している。採用時研修や勉強会などで言葉遣いについて教育していることから、職員の言葉かけは優しく丁寧で、急がすような様子は見られない。個人情報に関する記録類はスタッフルームで安全に管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを受け止め自己決定できる場面を提供しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく個々のペースに合わせた支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合ったおしゃれができるように支援しています。行事の時等お化粧を楽しんだりします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の方は食事を楽しみにしています。個々の力量に合わせて食事の準備や後片付けと一緒に楽しく行います。</p>	<p>調理の下ごしらえや下膳などできる範囲で利用者が参加している。庭の菜園で収穫された季節の野菜を献立に加えたり、毎週1回利用者の好みの献立の日を作ったりと、工夫しながら職員と利用者が楽しく食事をしている。日々の食材は、毎日利用者と一緒に近隣の商店に行って購入している。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量は記録し申し送りなどで確認し一日を通じて確保できるようにしています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、個人に合わせた口腔ケアをしています。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄の時間誘導が必要な方にはチェック表を利用してパターンの把握に努めできる限りトイレでの排泄を目指しています。</p>	<p>バイタルチェック表を活用して一人ひとりの排泄のパターンを把握し、時間誘導や同性介助なども取り入れて対応している。利用者の羞恥心に配慮して、トイレの周辺にカーテンを取り付けるなど工夫している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のため水分チェックや散歩などの運動、下剤などのコントロールをしています。また便秘の及ぼす影響も理解しています。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>現在は入浴が嫌いな方が多く楽しく入浴できるような話しかけなど工夫しています。皮膚の状態などによっては毎日入浴する方もあり、個々の状態やタイミングに合わせて行っています。</p>	<p>日曜以外は毎日14時30分～16時30分の時間帯に入浴できる。日曜は足浴の日として足のマッサージをしている。最低週2、3回は入浴してもらっているが、希望者は毎日でも、午前の時間帯でも入浴できる。入浴を拒否する利用者には、本人と話し合い事前に曜日を定めるなどして介護計画に反映させ、納得の上で入浴してもらっている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の習慣や体調に合わせて短時間の昼寝をしていただいたり夜間熟睡できるようメリハリのある生活をしています。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の病気や症状と一緒に服薬している薬について勉強会で確認しています。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々のできることを見極め出番・役割・楽しみ事を提供し「自分が必要とされている」ことをご本人に感じてもらえるような支援をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に毎日行けるように支援しています。また普段は行けないような場所にはご家族と行かれたり、外出行事で全体で出かけたりしています。	一年を通じてほとんど毎日近隣にある3箇所の公園や幼稚園などを散歩しており、近所の飼い犬との交流も楽しみの一つである。個別の買い物で近所の商店や市場に行ったり、年間行事のサクランボ祭りや花見、日帰り温泉、大型店での買い物、外食など外出の機会は多い。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持つことの大切さは理解している。現在の入居者の状況ではご自分でお金を所持されている方はいません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの申し出があったことはないが、ご家族からの電話には嬉しそうにでられています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾品(花・しめ飾り・ひな人形・クリスマスツリー等など)で心地よい空間づくりや会話が広がる工夫をしています。	居間は明るく広々としており、段差のない畳のスペースもある。対面式の台所が広くて使いやすく、利用者も気軽に台所に入って手伝うことができる。トイレ、洗面所、浴室は清潔で、居間や廊下の壁には利用者や職員の手作りの作品や写真が品良く飾られており、居心地の良い空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で過ごせるようなソファの配置を工夫したり、逆に一人で過ごせるようにしたり配慮しています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使いなれた家具などを持ってきていただき、安全に居心地良く過ごせるようご家族と相談して行っています。	居室には馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、壁には写真や習字、絵などが飾られている。各居室ドアには手作りの表札や暖簾などが飾られ、居心地良く暮らせるように配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室には入居者の視線に合わせて表札をかけていたり、のれんをつけたりしてわかりやすく配慮しています。またバリアフリーとなっています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	有限会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成22年6月7日	評価結果市町村受理日	平成22年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して、散歩に出かけ、季節を感じながら、地域の方々と交流したり、社会から孤立しないよう支援しています。認知症になり、できないことが増えてきても、家事等の作業を入居者と職員が一緒にいき、「できること」「できないこと」を見極めながら、さりげない支援を心がけています。食事は大切な楽しみの一つですので、献立は、旬の食材を積極的に取り入れ、季節感とバリエーションに富み、喜ばれています。まどべの理念に基づき、入居者の個々のペースに合わせ、ゆったり時間が流れ、尊厳を守り、地域の一員としての社会的交流を支えながら、一日一日を大切に暮らすお手伝いをしています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170504021&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年6月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみあって暮らしていきたい自分らしく誇り高く地域の一員として生きいきと」の理念を全職員共有し申し送りやカンファレンス勉強会等で意見交換しています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や買い物の時等近所の方や市場の方と交流し気軽に声を掛け合います。また運営推進会議にも参加いただいています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時などに「認知症を学び地域で支えよう」や「高齢者虐待防止についての取り組み」などをテーマに地域の方々に向けていかしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告や公表制度についての報告、話し合い意見交換をしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や区役所の方に相談したり話し合いサービスの質の向上に努めている。また、札幌市GH管理者連絡会議や集団指導には必ず出席しています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者より身体拘束しないケアを行うよう勉強会やカンファレンスに参加し職員に伝え実践しています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加した職員は内部の勉強会で資料を作成の上事例検討等を行い虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は外部の研修に参加し内部の勉強会で職員に報告しています。必要な人を見極めるよう努めています。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明書や利用契約書などと口頭で説明を行い、解約時にも不安や疑問がないか確認、その後のフォローも行っています。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時やケアプランの説明時に要望を尋ねたり、運営推進会議時にもご意見をうかがっています。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は毎月行われている勉強会やカンファレンスに参加し職員からの意見を聞く機会を設け、できる限り運営に反映させています。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者はカンファレンスや勉強会に参加したり職員の日々のケアを把握し評価しています。また向上心を持って働けるよう職場環境の整備を行っています。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員の力量に合った研修に参加できるよう積極的に機会を確保しています。またその他の研修の案内も職員に伝えています。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は今年度中に他のGHと交流ができるよう会議に参加、現在予定調整進行中です。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に得た情報を元に安心できるような話し合いをご本人としています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に得た情報を元に安心できるような話し合いをご家族としています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者は利用前の面談でご本人とご家族の「その時」の状況を見極め、他のサービスの利用も視野に入れて話し合いしています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に交流するなかで出来ることを見極めご本人から教わる場面を作り共に暮らす関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来訪で来たり相談できる雰囲気作りをしています。ご本人とご家族が交流できるよう職員が仲立ちします。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たとえば二週間に一度3泊4日で自宅に外泊する方の支援や、ご友人との会合へ参加される時の支援などしています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きなことや性格を把握し気の合う方同士が交流できるような仲立ちや雰囲気作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅へ戻られた方も同一建物内のデイサービスを利用したりなど引き継ぎしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や日々の会話などから思いを把握しご本人の視点での支援に努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から得た情報は記録し全職員で共有しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に観察し、有する力を見極め情報を共有し全職員が統一したケアを行っています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族のニーズを把握し全職員でカンファレンスを行いセンター方式を利用してご本人本位の介護計画を作成しています。また概ね3ヶ月に一度評価と見直しをしています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や表情言葉等を具体的に記録したりケアプランの実施の様子の記録とともに介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携をとったり、ご家族が受診に付き添えない場合には職員が同行し対処しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴、茶道、陶芸などボランティアの先生方にも協力いただいています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望がある場合には受診していただいています。希望がない場合には提携医を利用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が介護職も兼ねており常に状況を把握し他の介護職員との連携をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医に入院病棟があるため常に情報交換ができています。また入退院時には管理者が付添します。早期退院のお願いもしています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合の指針を説明しています。また状況の変化毎に話し合いをしてターミナルケアも行っています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時の研修から勉強し、その後の勉強会でも行っています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。災害時の避難場所は確認しており、地域の方々の協力体制もできています。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや言葉を受け止め誇りやプライバシーを損ねないよう尊敬の気持ちをもって接しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できる場面を作ったり思いを汲み取るよう努力しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく毎朝行っているバイタルチェック時に、その日どう過ごしたいか確認し体調に合ったペースの支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感があり生活場面に合ったその人らしいおしゃれを心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることを見極め食事の準備や後片付けと一緒に楽しい会話とともに行っていきます。また週に一度の夕食はお好みの日として入居者の方の食べたい献立をリクエストしていただいています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や一日の水分量を記録し習慣に応じた支援をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や持てる力に応じた口腔ケアを行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮した排せつ介助をしています。またできる限りトイレを利用できるように排泄パターンの把握をしています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解しており、予防のため水分量チェックや毎日の散歩、体操などに取り組んでいます。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて入浴しています。また職員と1対1でゆっくりコミュニケーションをとることができ、楽しみにされています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡できるようにメリハリのある生活をしていただいています。また体調や状況に応じて短時間の昼寝をすることもあります。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状に合わせて服薬している薬について勉強会で確認しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを見極め、役割や喜びのある暮らしを支援しています。またボランティアの先生による、茶道、大正琴、陶芸などがあり楽しみにされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ほぼ毎日散歩や買い物に行って外の天気や季節を感じています。またお花見や普段なかなか行けないところにも外出行事として全体で出かけたりしています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分でお金を持って買い物に出かけ好きな食べ物や飲み物を選んで買っています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人が希望した時にはいつでも対応しています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のある装飾品(花・しめ飾り・ひな人形・クリスマスツリー等)で心地よい空間づくりや会話が広がる工夫をしています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う入居者同士で過ごせるようなソファの配置を工夫したり、他者の視線を直接受けたくないような配慮をしています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人の使いなれた家具などを持ってきていただき、安全に居心地良く過ごせるようご家族と相談して行っています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の居室には入居者の視線に合わせて表札をかけています。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホームまどべ

作成日：平成 22年 7月 12日

市町村届出日：平成 22年 7月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	町内会長：毎回お誘いはするものの、都合が合わず参加に至っていません。民生委員：以前はご参加いただいていたが、前年度は都合が合わず、参加していただけませんでした。	町内会長や民生委員に参加していただく。	町内会長へ御挨拶に行き、グループホームまどべのPR、地域の方へのメリットや活動情報など交換し、信頼関係を築きます。また、町内会役員の都合もききながら、日程の調整をします。	2011年3月末日まで
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。